



てらやほけんだより

夏が過ぎ、ひと回り大きく、たくましくなった子どもたち。まだまだ続く暑さの中で、元気に遊んではいますが、夏の疲れが出てくるころです。一日の気温の差が大きくなるこの時期は、体調を崩しやすくなりますので、毎日の体調変化に注意して過ごしましょう。

9月9日は「救急の日」

救急とは、急なケガや体調不良の手当てをすることです。この機会に、ケガを防ぐために気を付けることや救急の対応をご家庭でも確認してみてください。

ケガ・事故の対応

どんなに気を付けていても、子どもは予測のつかないところでケガを…。そんな時、大人が動揺すると子どもはとても不安になってしまいます。状況を落ち着いて判断し、慌てず的確な処置が出来るよう基本的な知識を知っておきましょう。

転んで、落ちて… 頭を打った時のケア

一つでも当てはまる場合は**すぐに病院に!!**

- ・繰り返し吐く
- ・意識がもうろうとして、呼びかけに反応しない
- ・手足の動きがいつもと違う、左右差がある
- ・目の瞳孔の大きさが左右で違う
- ・打ったところが陥没している
- ・出血がひどい



上記にあてはまらない時は、以下の点を守って数日間は注意して様子を見ましょう。

- ・症状が出てきたらすぐに受診する
(顔色が悪い、吐き気がある、吐く、手足の動きがおかしい、意識がもうろうとする、呼びかけに反応しない、等)
- ・眠っているときの様子もチェックする
(寝返りを打っているか、等)

再確認してみてください。 窒息しないように対策を!

このくらいの大きさなら大丈夫と nghĩ いていませんか?

子供の口の大きさは

直径 4cm 以内の物は、子どもの口の中に入ってしまう。間違っ て飲 み込んでしまうことも…。



トイレットペーパーの芯の直径とほぼ同じ

直径 約 4 cm

ビー玉や小さなブロック等の遊ぶ物は子どもの手の届かないところへ保管しましょう。また、食品では、ミニトマトやぶどう、球形のチーズ、うずらの卵、さくらんぼ、こんにゃく等の丸い物やつるつとしたものは、4分の1にカットしたり、よく噛むよう声をかけて見守る事も必要です。



救急箱の中身、チェックしていますか?

ご家庭の救急用品をチェックしましょう。いざという時にあわてないよう、救急箱は取り出しやすく、子どもの手の届かない安全な場所に保管しましょう。滅菌ガーゼや薬は使用期限がありますし、テープ類は古くなると粘着力が弱くなります。**1年に1回は、救急箱の中身をチェックしましょう。**